

坂月川ビオトープのゆくえ

石 嶋 基 次（千葉市若葉区）

老化が進み外出するのが難しくなり自然環境保護保全活動を休止して2年、追いかけてコロナ騒動でなおさら家に籠っており、長年通っていた「坂月川ビオトープ」にも訪れる事が少なくなり季節の変動を感じる事が鈍くなって困っています。

このビオトープの保護保全活動を主体的に行っていた「坂月川愛好会」が創立20周年を迎えました。当初は周辺の宅地開発による生活排水の流入で汚染された坂月川の自然環境を良くするのが目的で複数の団体のメンバーが集まり「ゴミ拾い」を始め、環境整備を進めていました。地域の自然保護団体として少しずつ実績を残して20年、今日を迎えました。

2005年の「坂月川ビオトープ」誕生時からライフワークとして活動を始めました。誕生当時の経緯や中間活動状況は「しおかぜ」で数回にわたり報告を行っております。自然観察指導員として「自然観察ちば」の活動で得られた数々の体験と知識、優秀な仲間からご指導を頂いたことが、このビオトープ保護保全活動の源となっていました。

湿性ビオトープの特徴を活かした「ヘイケボタル保護保全」は15年後の今日まで継続されて毎年飛翔が観られます。毎年、地域住民の憩いの場所として親しまれています。

千葉市のレッドリストA「ニホンアカガエル」は早春から毎日卵塊数調査を継続して記録、産卵場所の水路、水循環等環境を整備し産卵数の維持拡大を図ってきました。

谷津田を生息場所として活動する「トンボ」は春一番のシオヤトンボから始まりオニヤンマなど多種多様のトンボ達を観る事が出来ます。2006年以後、自然観察ちばの互井賢二氏の協力を得て春のヤゴ・春夏秋の成虫と年4回の調査を継続しています。

2006年から観察記録では珍しい「クモ」の調査を「自然観察ちば」の和仁道大氏に専門的見地から初夏・初秋の2回の調査を継続して頂いており、クモ調査データから生態系に良い自然環境が維持されている事が証明されています。

このほか野鳥・植物・蝶などの調査や、ビオトープ内の流量・水質などの調査も継続しています。

体調不良のため、活動を停止しておりますが、新しい仲間が増えて組織改革も進められ「坂月川愛好会」も20周年を契機に従来の活動方針が変わってきました。

新体制ではNACS-Jのミニ1000に連動した調査方式を取り入れ、従来の継続調査項目を維持しながら新しい活動を展開しています。創設当初の会員は高齢化が進み力仕事に困難になりビオトープ内の保全作業が難しくなり、会の継続が危惧されましたが幸いにも新規会員（60～70代）が少しずつ増え、活動力が維持されて来ました。現役員を中心に「坂月川愛好会20周年記念誌」の発行準備も進められております。

加曽利貝塚の新規事業展開と共に湿性地「坂月川ビオトープ」も主要な役割を担うようです。

「継続は力なり」それぞれの時代に合った活動方法で自然環境保護保全活動が継続される事を願って老兵は消え去ります。

2021. 1. 21

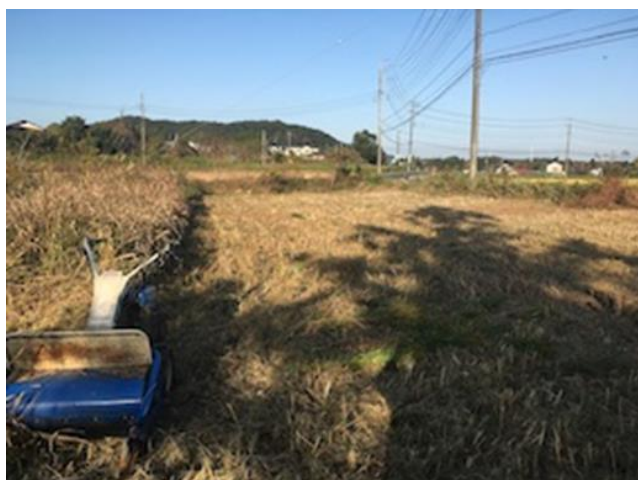
自然の保全と放棄の間において

小高康弘（大多喜町）

コロナ禍で都会においては諸々のイベントが中止になり延期されていますが、当地、大多喜町の田舎においてもしかり。自然観察教室などに参加する子どもたちの情操教育にとヤギと西洋と日本ミツバチを飼育しはじめていますが、残念ながら三密の回避を余儀なくされております。

御多分に洩れず当地においても限界集落傾向が顕著になり、森林や農地でさえ荒廃が進み鳥獣害が激しくなっています。二年前までは3町歩の森林の侵入モウソウチクを駆除する森林整備に注力し子どもたちを里山に誘い自然観察教室において生態系の自然循環などを教えていました。いまではイベントは中止しておりますが、里山は以前の植生が蘇生され低灌木、笹、茅、茶の木、真榊やミヨウガそしてレッドリストのツルキキョウなどの多様な植物が生き返っております。里山活動によるモウソウチクの駆除が単一で単調な植生が多様性を包含した自然へと変容したのではないかと経過を見ております。

そして退職した去年の4月からは里山から視野を拡げて荒廃した耕作放棄地の保全に注力し始めております。害虫やイノシシの隠れ場になっている耕作放棄地もハンマーナイフローターや刈払い機で背丈ほどの雑草を綺麗に処理してきて、現在では1町4反歩が除草されました。そして除草してからはトラクターで耕運して畑として利活用しており、ミツバチの蜜源としてナバナやレンゲや菜の花のタネを撒いて今ではナバナは花を咲かせてミツバチたちが花粉や蜜を求めて集まっています。里山と同じように荒廃した休耕田を景観の観点からも美化してきていますが、しかしながら、今振り返ってみると雑草を刈っていたときに、ウグイスなどの野鳥の丁寧な形成された巣が少なくなかったことを思い出します。きっと今年も野鳥たちは子孫を残すべく「荒廃し雑草が生い茂った」耕作放棄地に戻り自然の本能に従って巣作りに注力するのであろうことが推測されます。そして最近読んだ「英国貴族領地を野生に戻す」（原題「Wilding: The return of nature to a British farm」）には、生態系の再生に自然の放棄が有効であると例証しています。それ故に、自然の保全と放棄の間において、複雑な気持ちになり悩んでいます。



ハンマーナイフローターでの耕作放棄地の草刈り



耕作放棄地の保全と再生でナバナが蜜源になる

千葉県立中央博物館の小動物展示室

梅宮玲子（市原市）

1月7日の緊急事態宣言以降、1月9日から千葉県立中央博物館も休館、閉園になりました。休館中といっても、博物館の小動物展示室に展示されている小動物たちは生き物なので、専任のスタッフが平常と変わりなくお世話しております。

去年の2月までマムシを展示していましたが亡くなり、そのコーナーにアオダイショウとシマヘビをいっしょに展示することになりました。

最初は喧嘩するのではと、心配されていましたが、どちらも今の季節は寒いのか暖かいライトの下にくっついていけることがけっこうあります。



他にもいろいろ、展示されています。ちょうどアカハライモリの産卵が始まっています。

博物館のアカハライモリは孵化してから、最初にミジンコをエサとして育ちます。林紀男先生からミジンコの種をもらって増やそうとしていますが、寒さのせいか、なかなか思うようには増えてくれません。

ミジンコを増やすために暖かいライトの下においたり、ミジンコのエサにお茶の粉末や、ペットボトルのお茶をあげたりしています。（※画像は専任スタッフが撮影したものです）

博物館はしばらく休館中ですが、開館したら是非、小動物展示室もお立ち寄りください。専任スタッフは3日に1度の出勤ペースですが、タイミングが合えばエサをあげている様子を見学することができます。アズマヒキガエルのエサやりは大変人気があります。安心して開館出来る日が早くきますように。

どこからかコブハクチョウが

水野 和年（四街道市）

昨年の秋ごろに、四街道市総合公園の池にコブハクチョウが来ているという連絡がありました。調べた所、コブハクチョウは元々ヨーロッパのスカンジナビア半島南部やイギリスから中央アジアなどに生息しているとのこと。日本にいるものは、飼育されていたものが逃げ出して自然繁殖したもので、一言でいえば外来種だとのこと。一年中同じ場所にいることが多いけれど、短い距離を渡るとのことでした。いつか見に行こうと思っていましたが、まだいるだろう、まだいるだろうという事で先延ばしにしていたところ、いつの間にかいなくなっていました。どこに行ったのだろうと思っていたところ、総合公園に近い田んぼの水路にいるねばという事もあり、歩いて見に行きました（ほんの15分ほどですが）。居ました。話に



聞いていた通り仲睦まじい様子の2羽でした。誰か餌をやっているのか、食パンの欠片もありました。とるのか見ていこうと思っています。居る所は幅1m、深さ1mぐらいのコンクリート三面張りの水路です。おまけに上面には写真のように1.5m置きにコンクリートの梁があります。コブハクチョウの大きさは70cmぐらいあります。羽を広げると1m以上になるといいますので、このままでは飛立ってないし、よくこんなところにいるなと思いました。ところで、コブハクチョウはオオヒシクイと生息地が重なり、レンコンや稲の食害もあるとのこと、このまま増えていくと厄介な問題が起こりそうです。駆除の対象になるかもしれません。ともあれ、今のところあまり騒がれていませんし、この2羽がどのような動きをしていくか、見てみようと思っています。



ところで、コブハクチョウに限らず、最近、昆虫ではアカボシゴマダラチョウやムネアカハラビロカマキリ、植物ではオオキンケイギクなどの外来種が日本に入ってきて、定着したり、定着しようとしています。それにつれて在来の種が交雑したり、数を減らしたりしています。シロツメクサ、シロザ、セイタカアワダチソウのように、もう日本の自然に溶け込んでしまっているものもあります。外来種が入って来ても自然の出来事として受け入れていく、という事になっていくのでしょうか？

無限の境界（The Boundaries of the Limitless）

藤田 隆（松戸市）

横浜の地下鉄みなとみらい駅エスカレーターを上がると見えてくる、地下一階から四階まである巨大な壁のモニュメント。

ドイツ語と日本語が併記されている。内容は以下の通り。

「樹木は生育することのない
無数の芽を生み、
根をはり、枝や葉を拡げて
個体と種の保存にはありあまるほどの
養分を吸収する。
樹木は、この溢れるばかりの過剰を
使うことも、享受することもなく自然に還すが、
動物はこの溢れる養分を、自由に
嬉々とした自らの運動に使用する。
このように自然は、その初源から生命の
無限の展開にむけての序曲を奏でている。
物質としての束縛を少しずつ断ちきり
やがて自らの姿を自由に変わっていくのである。」



ベートーベン交響曲第9番の詩の原作者フリードリヒ・フォン・シラーよりデンマーク王子アウグステンブルク公にあてた「美学的なことに関する書簡第27号」の一部と言われている。

その内容は様々な分野で、「栄養と生命の循環が謳われている」。動的平衡の中では利他性と利己性を分けるなどと解釈された。

自然、植物、動物についての特徴を描いたアート作品、解釈は見る人に任せる作品として展示し、驚かせる。アートが街並みとマッチするかどうか、評価は分かれる。そうしたせめぎ合いが興味深い。

みなとみらい地区が誕生して20数年になるが、みなとみらい街づくり基本協定によって、新しい建築物にはアート作品を設置することが定められた。このため横浜駅からみなとみらい周辺には60点を超えるアート作品が並ぶ。横浜に出かけられる日が待ち遠しい。

北の国だより

1月になりました。千葉県では初雪の便りはまだでしょうか。札幌では、連日の雪で市街地の公園も一面の銀世界です。今回のテーマは、北の国だよりらしく、ずばり雪です。多様に満ちた雪の世界に、みなさんをご案内します。（佐野由輝）

北海道に瀬戸の花嫁？

雪道を歩いていると突然小舟に乗ったたくさんの花嫁さんたちを見かけました。ほっぺを真っ赤にした花嫁さんが真っ白な綿帽子をかぶっています。小豆島生まれの私には、瀬戸の花嫁が真っ先に頭に浮かびました。思わず、手を振って見送りたいくなりますね。

雪をかぶったナナカマドの実です。北海道では、街路樹として、植えられています。このように、こんもりと雪をかぶっている様子を、綿帽子と表現します。この季節、かわいらしい花嫁さんたちに、たくさん、出会えそうですね。



雪を表現する日本語の多様さ

雨の多い日本では、雨を表現する日本語が多いことで有名ですよね。南北に長い日本は、世界有数の豪雪地帯のひとつでもあります。当然、雪を表現した日本語もたくさんあります。降っている雪はもちろん、積もっている雪の表現も様々。今回は、その一部を紹介したいと思います。

大雪が降った次の日は、写真のような姿の針葉樹をよく見かけます。葉っぱの上に積もった雪の重みで枝全体が垂れ下がっています。このように木の枝をたわませる雪のことを「撓雪（しおりゆき）」と呼びます。そして、枝の上からドサッと、落ちてくる雪のことを「垂雪（しずりゆき）」と呼びます。撓雪と垂雪、何とも風情のある日本語ですね。生物の多様性ととも言葉の多様性も残していきたいですね。



文様に使われる雪

この季節、どっさりと雪をかぶった植物を見かけます。見ているだけで寒そうで、思わずふり払ってあげたくなりますが、実は、雪の中は意外と暖かく、植物にとっては布団のようなもの。

さて、植物に雪が覆いかぶさっている姿を雪持ちと呼びますが、その姿を文様化したものを雪持紋です。雪持松、雪持椿、雪持柳、雪持笹などが代表例です。この季節、雪持紋であしらった着物を着て、雪道を散歩するのも乙ですね。



樹木のスケッチ～描いて発見する自然のすばらしさ～（中田真也子）

コロナ感染の広がりには留まることはありませんが、皆様お元気にお過ごしでしょうか？こんな時だからこそ身近な自然を家族でじっくり見る時間の大切さを実感します。

私の代表をつとめる NPO リトカルでは、自然について多くの知識をもたないご家族も身近な木や生き物についてセルフ学習できるシステム『はなもく散歩』というWEB アプリを開発しました。今回は、そのアプリをご紹介させていただきます。

＜木との出会いをつくる『はなもく散歩』＞

『はなもく散歩』(<https://hanamokusampo.jp>)は樹名板の QR コードをスマホで読めば親子で樹木や身近な自然について出会い学べるシステムです。お子さん達自身が樹木について楽しみながら学べるように樹木のイラスト図鑑やクイズ、ボイスガイド、ポイント集めゲームの機能も実装しています。

2月2日（火）に国立科学博物館筑波実験植物園に樹名板 25 枚取り付けられるところからスタートします。

『はなもく散歩』は、木との出会いの感動を投稿・共有できるしくみも持っています。

『はなもく散歩』の図鑑は、書籍の図鑑のようにバッチリ完璧なものではありません。ですが各地域の自然を見守る方々や子供達、学校の先生方とともに地域や時代に合わせて育てていくことが出来る仕組みを備えています。ぜひ皆様も『はなもく散歩』の育ての親になってください。今後どうぞよろしくお祈いします！！



↓ 筑波実験植物園で配布されるチラシ ↓

